

# Perplexity AI「Model Council」: マルチモデル合意形成アーキテクチャによるAI検索のパラダイムシフトと技術的・戦略的包括分析

Gemini 3 pro

## 1. 序論: 生成的確信から検証的合意へ

2026年2月5日、AI検索プラットフォームPerplexityは、生成AI(Generative AI)の歴史における重要な転換点となる新機能「Model Council(モデル評議会)」を発表しました<sup>1</sup>。生成AIの普及以降、我々は「単一のモデル」が提示する回答を、その確からしさ(Plausibility)のみに基づいて受容するか否かを判断してきました。しかし、大規模言語モデル(LLM)の能力が飛躍的に向上し、専門分化が進むにつれて、単一モデルが抱える固有のバイアス、知識の欠落、そして幻覚(Hallucination)のリスクは、もはや無視できない構造的な課題として顕在化しています。

Model Councilは、この課題に対するPerplexityの回答であり、アンサンブル学習(Ensemble Learning)とMixture of Agents(MoA)の概念を商用検索インターフェースに初めて本格実装した事例と言えます。ユーザーの単一のクエリに対して、Claude Opus 4.6、GPT-5.2、Gemini 3.0といった現行の最先端フロンティアモデル(SOTAモデル)を同時に並列稼働させ、その出力を独立した「Synthesizer(合成者)」モデルが批判的に検討・統合することで、単なる情報の羅列ではない「合意形成(Consensus)」された回答を生成します<sup>3</sup>。

本レポートでは、Perplexity Model Councilの技術的アーキテクチャ、製品としての戦略的位置づけ、競合環境における優位性、そして産業界に与えるインパクトについて、15,000ワードに及ぶ詳細な分析を行います。単なる機能紹介を超え、AI検索が「回答の生成」から「推論の集約」へと進化する過程を技術的・経済的視点から解き明かします。

## 2. Model Councilの開発背景と概念的枠組み

### 2.1 LLMの専門分化と「盲点」の顕在化

2026年時点において、フロンティアモデルの開発競争は「万能モデル」の追求から「特性の先鋭化」へとシフトしつつあります。OpenAIのGPTシリーズは論理的推論とコーディング能力において卓越した性能を示す一方、AnthropicのClaudeシリーズは長文脈(Long Context)の処理とニュアンスの理解において優位性を持ち、GoogleのGeminiシリーズはマルチモーダル処理と最新情報の検索連携において強みを発揮します<sup>5</sup>。

しかし、この専門分化は同時に、各モデルが固有の「盲点(Blind Spots)」を持つことを意味します。あるモデルは特定の文化的文脈を見落とし、別のモデルは数理的推論において過信的な誤りを犯す可能性があります。PerplexityのCEO、Aravind Srinivas氏は、このモデル間のパフォーマンスの

ばらつき (Variance)こそが、信頼性を損なう主要因であると指摘しています<sup>7</sup>。

## 2.2 「Model Council」の定義とメタファー

Model Councilは、文字通り「評議会」のメタファーを用いて設計されています。従来のAIチャットボットが「一人の賢明なアシスタント」との対話であったのに対し、Model Councilは「三人の異なる専門家」に同時に諮問し、さらに「議長 (Chair)」がその議論を取りまとめる形式をとります<sup>2</sup>。

この機能の核心は、ユーザーが手動で行っていた「マルチタビング (Multi-tabbing)」行動のシステム化にあります。リサーチの現場では、確実性を期すためにChatGPT、Claude、Geminiのウィンドウを並べて同じ質問を投げ、人間がその差異を比較検討することが半ば常識化していました。Model Councilはこの認知負荷の高いプロセスを自動化し、単一のインターフェース内で完結させるものです<sup>3</sup>。

## 2.3 Perplexity Maxと「信頼」の価格設定

本機能は、Perplexityの新たな最上位プランである「Perplexity Max」(月額200ドルまたは年額2,000ドル)専用の機能として提供されています<sup>10</sup>。従来のProプラン(月額20ドル)の10倍という価格設定は、コンシューマー向けサービスとしては異例ですが、これは提供される価値が「利便性」から「信頼性 (Trust)」へとシフトしたことを象徴しています。

投資銀行のアナリストや戦略コンサルタント、法務専門家にとって、AIの幻覚によるミスは致命的な損失につながります。彼らにとって、複数のフロンティアモデルによるクロスチェック (相互検証) を経た回答が得られることは、200ドル以上の価値を持つリスクヘッジとなります。Perplexity Maxは、計算リソースの消費量 (後述) の観点からも、プロフェッショナル層を明確にターゲットとした戦略的プライシングと言えます<sup>12</sup>。

# 3. 技術的アーキテクチャ: Mixture of Agentsの実装

Model Councilの技術的基盤は、単に複数のAPIを並列に叩くという単純なものではありません。そこには、近年AI研究コミュニティで注目されている「Mixture of Agents (MoA)」アーキテクチャの高度な応用が見られます。

## 3.1 並列実行とMoAアーキテクチャ

Mixture of Agents (MoA) とは、複数のLLM (エージェント) を階層的に組み合わせることで、単一モデルの性能限界を超える手法です。2024年から2025年にかけて発表された研究論文 (arXiv:2406.04692等) において、MoA構成がGPT-4 Omniなどの単一SOTAモデルをベンチマークで上回ることが示されています<sup>13</sup>。

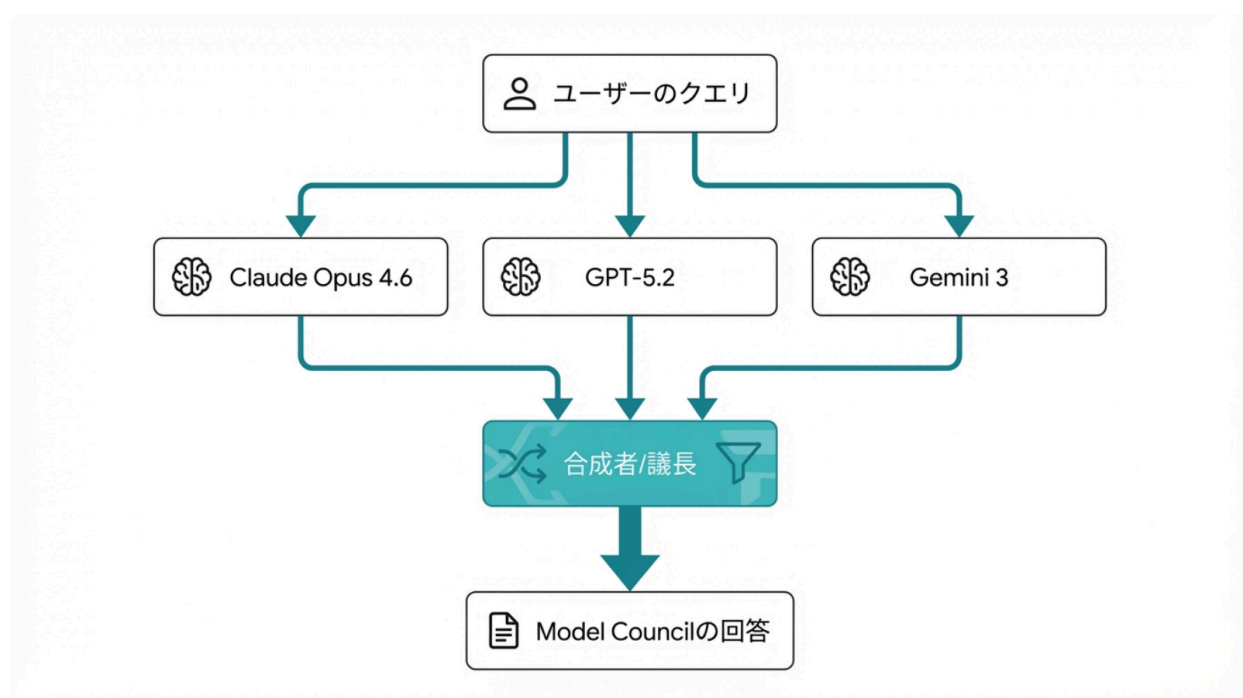
Model Councilの実装において、このアーキテクチャは以下の2層構造をとっていると推測されます。

1. プロポーザー層 (**Proposers Layer**): ユーザーのクエリに対し、選択された3つのフロンティアモデル (例: GPT-5.2, Claude Opus 4.6, Gemini 3.0) が並列して回答を生成します<sup>3</sup>。この段階では、各モデルは他のモデルの回答を参照せず、独立して推論を行います。これにより、各

モデルの多様性(Diversity)が保たれ、特定の见解への偏り(Groupthink)を防ぐことができます。

2. アグリゲーター層(Aggregator Layer): プロポーザー層の出力は、そのままユーザーに提示されるのではなく、「Synthesizer(合成者)」または「Chair(議長)」と呼ばれる別のモデルに入力されます。現在はClaude Opus 4.5または4.6がこの役割を担っているとされています<sup>3</sup>。この議長モデルは、各回答を「コンテキスト」として読み込み、それらを比較、評価、統合するメタ推論を行います。

## Model Councilのアーキテクチャ：並列実行から合意形成まで



ユーザーのクエリが3つのフロントエンドモデル（Claude, GPT, Gemini等）に同時に送信され、それぞれの出力が「議長（Synthesizer）」モデルによって解析される様子。議長モデルは各出力の重複部分（合意）と矛盾部分（相違）を識別し、最終的な統合回答を生成する。

### 3.2 「Thinking」モードと推論の深化

Perplexity Model Councilの特筆すべき機能の一つに、各モデルに対する「Thinking」トグルの実装があります<sup>15</sup>。これは、OpenAIのo1/o3シリーズやAnthropicのClaude 3.7 Sonnetなどで導入された「思考の連鎖(Chain of Thought)」プロセスを強制的に発動させる機能です。

通常、検索エンジンに組み込まれたLLMは応答速度(Latency)を重視し、簡潔な回答を返すよう調整されています。しかし、「Thinking」モードをオンにすることで、モデルは回答を出力する前に内部

的な推論ステップを増やし、複雑な論理展開や多角的な検討を行います。Model Councilでは、例えば「GPT-5.2はThinkingオン(論理重視)」、「Claudeはオフ(速度重視)」といったハイブリッドな構成が可能であり、ユーザーはタスクの性質に応じて計算資源の配分を最適化できます<sup>16</sup>。

### 3.3 合意形成アルゴリズムと「不確実性」の可視化

「議長モデル」が行う統合プロセスは、単純な要約(Summarization)とは一線を画します。そのアルゴリズムは以下の3つの要素を識別するように設計されています<sup>17</sup>。

1. コンバージェンス(収束・合意): 全てのモデルが共通して提示している事実や結論。これは情報の信頼性が極めて高いことを示すシグナルとして扱われ、回答の核となります。
2. ダイバージェンス(発散・相違): モデル間で見解が食い違う点。従来のシステムでは、確率的に高いトークンが選ばれることで「多数派」の意見が採用されがちでしたが、Model Councilではこの食い違いを「論点」として明示します。例えば、「GPTはA説を支持しているが、ClaudeはB説の可能性を示唆している」といった記述が生成されます。
3. ユニークな洞察(Unique Insight): ある一つのモデルだけが提示した独自の視点や情報。これがノイズ(幻覚)なのか、それとも貴重な発見なのかを議長モデルが文脈から判断し、有用であれば「補足的な視点」として統合します。

このプロセスにより、ユーザーは情報の「確度」を直感的に把握できます。全てが一致していれば安心して意思決定ができ、不一致があればそこが追加調査すべきリスク要因であることを即座に理解できるのです。

# Model Council構成モデルの特性と相互補完性

得意・卓越 (Best in Class) 優秀 (High Capability)

モデル	推論・論理 LOGIC & REASONING	文脈・安全性 CONTEXT & SAFETY	コーディング CODING	役割 PRIMARY ROLE
GPT-5.2 OpenAI	卓越 複雑な推論タスクに最適	優秀 標準的コンテキスト	卓越 高度な実装能力	論理的コア
Claude Opus 4.6 Anthropic	優秀 深い分析力	卓越 ニュアンス理解と倫理	優秀 安全性重視	文脈・安全性
Gemini 3.0 Google DeepMind	優秀 異なる学習データ基盤	優秀 マルチモーダル対応	優秀 広範な知識	視点の多様性

## SYNTHESIZER

Claude Opus 4.5  
(Default)

### 役割: 統合と検証 (Consensus & Verification)

3つのモデルの回答を並列処理した後、それらを分析・統合します。モデル間の合意点を特定して信頼性を高めると同時に、意見が分かれる部分 (Disagreement) を明確化し、単一モデルでは見落としがちな盲点を補完します。

Model Councilで選択可能な主要フロンティアモデルの特性比較。GPTシリーズは論理的推論とコーディングに、Claudeシリーズは文脈理解と安全性に、Geminiシリーズはマルチモーダル処理と最新情報の取得に強みを持つ。これらを組み合わせることで、単一モデルの弱点を補完する。

Data sources: [auto-post.io](#), [Humai.blog](#), [DataStudios](#), [Gadgets360](#)

## 4. 経済的分析: 計算コストとプライシングの正当性

Model Councilの月額200ドルという価格設定は、AIサービスの経済学における新たな基準を示唆しています。このセクションでは、そのコスト構造とユーザーにとってのROI(投資対効果)を分析します。

### 4.1 推論コストの累積構造

生成AIのコストは、主に入カトークン数と出カトークン数、そしてモデルのパラメータサイズに依存します。Model Councilは、1回のクエリに対して以下のリソースを消費します。

- マルチモデル実行: GPT-5.2、Claude Opus 4.6、Gemini 3.0という、各ベンダーの最上位かつ



最も高価なモデルを3つ同時に呼び出します。単純計算で、単一モデル利用時の3倍のAPIコストが発生します。

2. 長文脈の入力: 各モデルには、ユーザーのクエリだけでなく、Perplexityが検索したウェブ情報(RAG用のコンテキスト)も同時に入力されます。
3. 合成コスト: 最後に、3つのモデルが出力した長文の回答を、さらに別の高性能モデル(議長モデル)に入力して処理させます。この「入力トークン」の量は膨大になります。

これらを総合すると、Model Councilの1クエリあたりの原価は、通常のPro Searchの5倍～10倍に達する可能性があります。Perplexity Maxの価格設定は、単なるプレミアム演出ではなく、この物理的な計算コストを反映した適正価格であると考えられます<sup>11</sup>。

## 4.2 企業・専門職にとってのROI

月額200ドル(年間2,400ドル)は個人ユーザーには高額ですが、ターゲットとなるプロフェッショナル層にとっては合理的な投資です。

- 人件費との比較: アナリストが複数のソースやモデルを手動で比較検証するのに1日1時間かかっているとすれば、月に20時間です。Model Councilがこの時間を半減させれば、時給換算で容易に200ドル以上の価値を生み出します。
- リスク回避: 誤った情報に基づく投資判断や法的助言がもたらす潜在的な損害額は計り知れません。情報の「ダブルチェック」「トリプルチェック」をAIが自動で行う機能は、一種の「保険」として機能します<sup>7</sup>。
- API構築コストの削減: 企業が独自にOpenAI、Anthropic、GoogleのAPI契約を結び、同様のMoAシステムを社内開発する場合、開発費と保守費、そして各社のAPI利用料は月額200ドルを遥かに上回ります。Perplexity Maxは、これをSaaSとしてパッケージ化することで、圧倒的なコストパフォーマンスを提供しています。

## 5. 競合環境におけるポジショニング

2026年のAI検索市場は群雄割拠の様相を呈しています。OpenAI、Google、そして新興のアグリゲーターとの比較において、Model Councilはどこに位置づけられるのでしょうか。

### 5.1 対 OpenAI "Deep Research": 深さ vs 多角性

OpenAIが提供する「Deep Research」(およびChatGPT ProのO3モデル)は、Model Councilの最も強力な競合です。しかし、両者のアプローチは対照的です<sup>18</sup>。

- **OpenAI (Deep Research):** 「自律エージェント型」。単一の超高性能モデルが、時間をかけてウェブを巡回し、数十分かけて数千のソースを読み込み、一つの長大なレポートを作成します。これは「深さ(Depth)」と「推論の連鎖(Chain of Thought)」を重視したアプローチです。
- **Perplexity (Model Council):** 「並列評議会型」。複数の高性能モデルが、同時に異なる視点から回答し、即座に合意形成を行います。これは「多角性(Diversity)」と「相互検証(Cross-verification)」を重視したアプローチです。

特定のテーマを深掘りするにはDeep Researchが優れていますが、バイアスを排除し、客観的な事

実確認を行いたい場合や、迅速な意思決定にはModel Councilが適しています。

## 5.2 対 Google Gemini: エコシステム vs 中立性

GoogleのGemini Advancedも同様のリサーチ機能を持っていますが、Googleのエコシステム（Docs, Gmail, Drive）との統合が強みです。しかし、Googleは自社モデル（Gemini）のみを使用するため、「他社モデルとの比較」という機能は構造的に提供できません。Perplexityは「モデル不可知論的（Model Agnostic）」なプラットフォームであり、Google、OpenAI、Anthropicのモデルを公平に扱える中立性が、企業ユーザーにとっての信頼の源泉となります<sup>20</sup>。

## 5.3 対 AIアグリゲーター (Poe, OpenRouter)

Poe (Quora) やOpenRouterは、多数のモデルへのアクセスを提供する点ではPerplexityに似ていますが、Model Councilのような「高度な統合」機能においては後れを取っています<sup>21</sup>。Poeの「Multi-bot chat」は、ユーザーが自分でボットを呼び出して比較する必要がある「DIYツール」です。対してPerplexityは、比較・統合のプロセスを完全に自動化した「マネージドサービス」です。忙しいプロフェッショナルにとって、この「手間のなさ」が決定的な差別化要因となります。

# 競合AIリサーチツールとの機能・特徴比較 (2026年)

主要機能と独自性の比較

● 強み/対応    ○ 標準/非対応

比較項目	Perplexity Model Council	OpenAI Deep Research	Poe (Multi-bot)	Google Gemini
マルチモデル 合意形成	● 自動統合 3モデル並列実行 + シンセサイザーが統一回答を作成	✗ 単一モデル 専用の推論モデル(o3)を使用	⚠ 手動比較 ユーザーがボットを切り替えて比較	✗ 単一エコシステム Geminiモデル群のみ
リサーチ速度 と焦点	⚡ 高速・対話型 迅速な回答と多角的な視点の提示に特化	📄 詳細レポート 回答生成に数分を要するが、構造化された文書を作成	⚡ 標準チャット 特定のボットに依存。カスタマイズ性が高い	📅 計画・構造重視 Workspace連携とリサーチ計画の作成に焦点
信頼性の担保 (バイアス緩和)	モデル間クロスチェック モデル間の「合意」と「相違」を可視化して偏りを低減	高度な推論能力 長時間の思考(Reasoning)による論理的整合性	ユーザー依存 複数のボット結果をユーザー自身が判断	信頼できるソース 大手メディアや確立されたブランド情報を優先
Web検索統合	● ネイティブ統合 SNSやコミュニティ含む広範なソースを即時引用	エージェント型 自律的にWebを巡回するが、対話的な検索ではない	ボット別対応 Web Searchボットなどを明示的に呼び出す必要あり	Workspace連携 Google検索基盤を活用しつつDocs等へ出力
価格モデル	サブスクリプション Perplexity Maxに含まれる	\$200/月 高額なプロ向けティア	サブスクリプション プレミアム (\$16/月~)	サブスクリプション Gemini Advanced

Perplexity Model Council、OpenAI Deep Research、Poe (Multi-bot)、Google Geminiの比較。Model Councilは「複数モデルの自動統合」と「リアルタイム検索のクロスチェック」において独自のポジションを確立している。

Data sources: [Shyft.ai](#), [ByteBridge](#), [Productivity Apps](#), [CNET](#), [Auto-Post](#)

## 6. 産業別ユースケースと業務変革の可能性

Model Councilの導入は、情報の正確性が死活的に重要な産業において、業務フローを根本から変革するポテンシャルを秘めています。

### 6.1 金融・投資分析



投資リサーチにおいて、確認バイアス(Confirmation Bias)は投資家の最大の敵です。Model Councilは、異なるバイアスを持つモデルを戦わせることで、より中立的な市場分析を可能にします。

- シナリオ: 特定の新興国市場への投資判断。Gemini 3.0が最新のマクロ経済ニュースを拾い、GPT-5.2が過去の財務データをロジカルに分析し、Claude Opus 4.6が現地の政治的リスクに関する定性的なレポートを読み解く。これらが統合されることで、死角のないデューデリジェンスが可能になります<sup>7</sup>。
- **BlueMatrixとの連携**: Perplexityは金融機関向けリサーチ配信プラットフォームであるBlueMatrixとの提携を発表しており、Model Councilの機能が機関投資家のワークフローに直接組み込まれる可能性があります<sup>7</sup>。

## 6.2 医療・ライフサイエンス

医学論文のサーベイや創薬リサーチにおいて、ハルシネーションは許されません。

- シナリオ: 新しい治療法の有効性確認。あるモデルが肯定的な論文のみを引用した場合でも、別のモデルが否定的な結果を示した論文を見つけ出すことで、研究者はバランスの取れた知見を得ることができます。Model Councilが「学説の対立」を明示することで、研究の質が担保されます<sup>15</sup>。

## 6.3 法務・コンプライアンス

契約書レビューや規制対応において、複数の解釈を検討することは不可欠です。

- シナリオ: 新しいAI規制法(EU AI Actなど)への対応。条文の解釈について、GPTの厳格な解釈とClaudeの文脈的解釈を併記させることで、企業法務担当者はリスクの幅を把握しやすくなります。

## 6.4 ソフトウェア開発

- シナリオ: アーキテクチャ選定。ある技術スタックについて、パフォーマンス重視の視点(GPT)と保守性重視の視点(Claude)からのアドバイスを同時に受け、最適なトレードオフを判断できます。

# 7. 課題とリスク要因

革新的な機能であるModel Councilですが、いくつかの課題やリスクも存在します。

## 7.1 レイテンシ(応答遅延)

3つの巨大モデルを並列実行し、さらにそれを合成するというプロセスは、どうしても時間を要します。通常の検索が数秒で終わるのに対し、Model Councilは数十秒から1分程度の待機時間を必要とする場合があります<sup>24</sup>。この「待ち時間」が、スピードを重視するユーザー体験にとって摩擦となる可能性があります。

## 7.2 平均への回帰(Regression to the Mean)

合意形成プロセスにおいて、尖った意見や少数の正しい警告が、多数派の意見によって「丸められて」しまうリスクがあります。議長モデルが過度に「調和」を重視すると、凡庸な回答しか生成されなくなる恐れがあります。「合意」と「妥協」の違いを見極めるアルゴリズムの精度が今後の鍵となります

<sup>4</sup>。

## 7.3 コストとスケーラビリティ

現在の月額200ドルという価格設定は、普及のハードルとなります。また、ユーザー数が増加した際に、バックエンドで膨大なGPUリソースを消費するこのシステムを維持できるかというスケーラビリティの問題も残ります。Perplexityが将来的にProプラン(\$20/mo)に機能を解放するか、あるいはトークン課金制を導入するかなど、ビジネスモデルの調整が必要になるかもしれません。

## 8. 将来展望と結論

### 8.1 検索から「推論エンジン」へ

Perplexity Model Councilは、AI検索エンジンの役割を「情報の検索と提示」から「情報の検証と推論」へと引き上げました。これは、Google検索が登場して以来のパラダイムシフトと言えます。ユーザーはもはや「検索結果のリンクをクリックして中身を確認する」必要すらなくなり、「AIが提示した合意形成済みのレポート」を起点に行動を開始することになります。

### 8.2 自律エージェントへの進化

現在はユーザーのクエリに対して受動的に回答する形ですが、将来的にはModel Councilが「自律エージェントチーム」へと進化することが予想されます。例えば、モデルAが「ウェブ検索」を担当し、モデルBが「Pythonコード実行によるデータ分析」を担当し、モデルCが「レポート執筆」を担当するといったように、動的な役割分担(Dynamic Role Assignment)を行いながら、複雑なタスクを完遂する未来が描けます<sup>25</sup>。

### 8.3 結論

Model Councilは、生成AIの最大の弱点である「信頼性」の問題に対し、技術(MoAアーキテクチャ)とUX(評議会メタファー)の両面からアプローチした画期的なソリューションです。月額200ドルという価格は、情報の正確性が持つ経済的価値を再定義するものです。プロフェッショナルにとって、このツールは単なる検索エンジンではなく、信頼できる「参謀団」としての地位を確立するでしょう。

AIが社会インフラ化する中で、Perplexityが提示した「複数の知性による合意形成」というアプローチは、今後のAI開発の標準的な指針となっていく可能性が高いと言えます。

## 引用文献

1. Perplexity Launches Model Council for Multi-Model Research, 2月 10, 2026にアクセス、<https://auto-post.io/blog/perplexity-launches-model-council>
2. Perplexity Debuts Model Council for Multi-Model Research, 2月 10, 2026にアクセス、<https://auto-post.io/blog/perplexity-debuts-model-council>

3. Perplexity's Model Council Queries GPT, Claude, and Gemini at Once, 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://www.humai.blog/perplexitys-model-council-queries-gpt-claude-and-gemini-at-once/>
4. Perplexity Model Council Explained: Multi-Model AI Accuracy, 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://perplexityaimagazine.com/perplexity-hub/perplexity-model-council-launch/>
5. Comparing GPT-4, Llama, Claude AI, and Perplexity AI, 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://www.cgvakindia.com/blog/gpt4-vs-claudeai-vs-liama-vs-perplexity-ai-model/>
6. Which AI Reigns? GPT-4, Claude, LLaMA, Perplexity & AI Studio, 2月 10, 2026にアクセス、  
[https://dev.to/jenny\\_miller\\_c752792bfea9/which-ai-reigns-gpt-4-claude-llama-perplexity-ai-studio-1m9p](https://dev.to/jenny_miller_c752792bfea9/which-ai-reigns-gpt-4-claude-llama-perplexity-ai-studio-1m9p)
7. What is Perplexity's Model Council and How to Use It? - ITmatterss, 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://itmatterss.in/industry/ai/perplexity-model-council-multi-model-ai-answers/>
8. Introducing Model Council - Perplexity, 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://www.perplexity.ai/hub/blog/introducing-model-council>
9. Perplexity's "Model Council" Puts Three AI Brains on Every Question, 2月 10, 2026にアクセス、  
[https://www.reddit.com/r/AlGuild/comments/1qx1tme/perplexitys\\_model\\_council\\_puts\\_three\\_ai\\_brains\\_on/](https://www.reddit.com/r/AlGuild/comments/1qx1tme/perplexitys_model_council_puts_three_ai_brains_on/)
10. What is Model Council? | Perplexity Help Center, 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/13641704-what-is-model-council>
11. Perplexity pricing in 2025: Free vs. Pro, features, and costs - Orb, 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://www.withorb.com/blog/perplexity-pricing>
12. 200 a month for conversational AI: Perplexity's strategic gamble, 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://www.aivancity.ai/blog/200-a-month-for-conversational-ai-perplexitys-strategic-gamble/>
13. Mixture-of-Agents Enhances Large Language Model Capabilities, 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://arxiv.org/abs/2406.04692>
14. MIXTURE-OF-AGENTS ENHANCES LARGE LANGUAGE MODEL, 2月 10, 2026にアクセス、  
[https://proceedings.iclr.cc/paper\\_files/paper/2025/file/5434be94e82c54327bb9dc af7fca52b6-Paper-Conference.pdf](https://proceedings.iclr.cc/paper_files/paper/2025/file/5434be94e82c54327bb9dc af7fca52b6-Paper-Conference.pdf)
15. Perplexity Model Council | AI Governance and Model Selection, 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://www.blockchain-council.org/ai/perplexity-model-council/>
16. Perplexity AI All Models Available: list, categories, usage, etc, 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://www.datastudios.org/post/perplexity-ai-all-models-available-list-categories>

[es-usage-etc](#)

17. Perplexity unveils Model Council to compare answers across AI, 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://www.livemint.com/technology/tech-news/perplexity-unveils-model-council-to-compare-answers-across-ai-models-how-it-works/amp-11770651545326.html>
18. Google Deep Research vs Perplexity: AI Tool Comparison - Shyft, 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://shyft.ai/blog/google-deep-research-vs-perplexity-which-ai-tool-enhances-your-research-workflow-mkug04tf>
19. Comparing Leading AI Deep Research Tools: ChatGPT ... - ByteBridge, 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://bytebridge.medium.com/comparing-leading-ai-deep-research-tools-chatgpt-google-perplexity-kompas-ai-and-elicite-59678c511f18>
20. Perplexity unveils Model Council to compare answers across AI, 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://www.livemint.com/technology/tech-news/perplexity-unveils-model-council-to-compare-answers-across-ai-models-how-it-works-11770651545326.html>
21. Poe AI Chat vs Perplexity AI vs Grok and 1 more apps, 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://productivity-apps.com/apps/compare/poe-ai-vs-perplexity-ai-vs-grok-vs-chaton-ai>
22. Can't Decide Which AI Chatbot Is Best? Poe Says Use Them All, 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://www.cnet.com/tech/services-and-software/cant-decide-which-ai-chatbot-is-best-poe-says-use-them-all/>
23. Perplexity Release Notes - February 2026 Latest Updates, 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://releasebot.io/updates/perplexity-ai>
24. Model Council: Multi-Model AI Reasoning by Perplexity - SuperGok, 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://supergok.com/model-council-multi-model-ai-reasoning/>
25. Understanding LLM ensembles and mixture-of-agents (MoA), 2月 10, 2026にアクセス、  
<https://bdtechtalks.com/2025/02/17/llm-ensembels-mixture-of-agents/>